

米粉パンの原料今年も手刈り 東北日本ハムと合同稲刈り式



▲収穫した米粉用米は米粉パンになり、消費者に届けられます

当JAと米粉用米の供給先である、東北日本ハム株式会社は10月1日、広野地区のほ場で合同稲刈り式を行いました。当JA役員や生産者、同社社員やその家族ら約50人が参加し、手刈りで「はえぬき」を刈取りました。当JAの29年産米粉用米は98ha、出荷契約数量約600トン、同社へは製粉会社を経て約1500トンを供給する予定です。同社商品「みんなの食卓」シリーズの米粉100%のパンの原料になり、市内の小中学校の給食に年2回提供されるほか、同社インターネットでも販売しています。

同社の澤田潔志社長は「需要はさらに伸びる見通し、この取り組みを長く続けていきたい」と話していました。

爽秋の高瀬峡を元気にウォーキング 第5回ウォーキング倶楽部開催

当JA「ウォーキング倶楽部」は9月16日、「遊佐町『高瀬峡』を歩く」と題して第5回目のウォーキングを開催しました。同倶楽部会員など31人が参加し、往復約2時間のハイキングコースに挑戦。爽秋の「高瀬峡」を満喫しました。

今回は山岳ガイドの指導のもと、同町のしらい自然館から車で5分ほどの「山の神」の祠のある駐車場から「大滝」を目指して出発。鳥の声や沢の澄んだ水の流れを楽しみながら歩いていました。

「本格的な山道を歩いたのは初めて。滝や沢が多く、水がともきれいで驚いた」と参加者たち。ウォーキング終了後は昼食会とレクリエーションが行われ、参加者同士の交流を深めていました。



▲清らかな水の流れを楽しみながら歩きました

神奈川大学が産地研修 稲刈りや長ネギの掘り取り体験



▲手刈りや束にしてまとめる方法を学びました

神奈川大学の学生と同大生活協同組合の職員ら30人は9月13日から15日、当JA管内で農業体験や施設見学を行いました。同大学の産地研修は今年で9年目。学生食堂で当JA産の「はえぬき」を使用していることが縁で始まりました。

一行は14日、酒田市広野地区のほ場で、生産者の加藤貞介さんから鎌の使い方や、束にしてまとめる方法を学び、手刈りでの稲刈りに挑戦。学生たちは「コンバインでは一瞬だが、手刈りだと大変な作業と実感した」と額に汗をにじませていました。この他にも長ネギの掘り取りや、共選施設、精米センターなどを見学し、農業への理解を深めていました。